

各関係機関の長 殿

鹿児島県病害虫防除所長

令和8年度技術情報第6号(トマト、ミニトマトのトマトキバガ)について (送付)

下記のとおり取りまとめましたので、周知及びご指導をよろしくお願いたします。
なお、本情報は、病害虫防除所ホームページ (<https://www.pref.kagoshima.jp/ag13/kiad/boujoshou/index.html>) にも掲載しています。



令和8年度 技術情報第6号

トマトキバガの被害が本県では初めて出水市のミニトマトで確認されました。今後、気温上昇に伴い、ハウス開放による成虫の飛び込みも予想されることから、侵入防止及び早期発見・防除に努めてください。

1 農作物名 トマト、ミニトマト

2 病害虫名 トマトキバガ

3 発生状況及び情報の根拠

- (1) 北薩地域振興局農政普及課出水市駐在からの連絡により、5月8日に出水市のミニトマトほ場を調査した結果、トマトキバガによる被害葉(図1)及び被害果(図2)を確認した。
- (2) トマトなどのハウス周辺に設置したフェロモントラップの誘殺数は年々増加傾向にあり、被害が確認された出水市が最も多く推移している(表1)。
- (3) 今後、気温上昇に伴い、ハウス開放により成虫の飛び込みや被害が予想される。

4 本種および被害の特徴

- (1) 成虫は体長5~7mm、前翅は灰褐色で黒色斑が散在する(図3)。幼虫は、終齢で体長は8mmに達し、体色は淡緑色~淡赤白色で、前胸の背面後縁に狭い黒色横帯を有する(図4)。
- (2) トマトでは、葉の内部に幼虫が潜り込んで食害し、葉肉内に孔道が形成される。食害部分は表面のみ残して薄皮状になり、白~褐変した外観となる(図1)。ハモグリバエ幼虫の食害に似ているが、ハモグリバエの食害痕は細長く、線状になるのに対して、トマトキバガの食害痕は面状である。果実では、幼虫が穿孔侵入して内部組織を食害するため、果実表面に数mm程度の穿孔痕が生じる(図2)とともに、食害部分の腐敗が生じ、果実品質が著しく低下する。
- (3) 国内ではトマト(ミニトマトも含む)以外にナス及びイヌホオズキで食害が確認されている。

5 防除上注意すべき事項

- (1) 施設栽培ではハウスの開口部や換気部を目合い1mm以下のネットで被覆し、ハウス内への侵入防止に努める。
- (2) ほ場内をよく見回り、疑わしい被害葉、被害果実を発見した場合、ビニル袋等に密封するなど、成幼虫を死滅させたうえで、適切に処分する。
- (3) なお、幼虫の発生を確認したら、トマト、ミニトマトでは本種に登録のある農薬(表2)を用いて、使用基準を遵守し、防除する。

6 参考データ

表1 フェロモントラップによる誘殺状況（令和5～8年）

調査品目	地点	令和5年				令和6年				令和7年				令和8年								
		10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月 ¹⁾	
トマト	霧島市	No.1	-	5	2	0	2	2	6	14	2	0	0	0	0	0	18	12	5	4	7	18
		No.2	-	1	1	0	0	1	2	8	2	0	0	0	0	27	13	9	3	0	4	6
	出水市	No.1 ²⁾	5	19	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	158	233	204	12	17	23	66	
ピーマン	志布志市	No.1	-	1	0	0	1	0	3	23	3	1	0	0	1	27	46	12	1	3	1	3
		No.2	-	0	0	0	0	0	0	13	1	0	0	0	0	33	30	5	1	1	3	14
バレイショ	長島町	No.1	-	1	1	1	0	0	0	10	5	0	0	0	0	15	49	13	4	2	2	0
		No.2	-	6	2	1	0	0	0	9	0	0	1	0	2	2	51	8	6	0	7	5
	計		5	33	8	2	4	3	16	77	13	1	1	0	18	262	440	263	32	45	78	152

注1) 調査間隔：調査月の前月中旬にトラップを設置し、約1カ月後に回収して誘殺数を調査

例 令和8年4月：3月中旬～4月中旬の誘殺数

注2) 令和5年10月～12月：病理昆虫研究室によるトラップ調査結果を基に上記間隔で集計



図1 幼虫による葉の被害被害
(出水市、ミニトマト)



図2 幼虫による果実の被害
(出水市、ミニトマト)

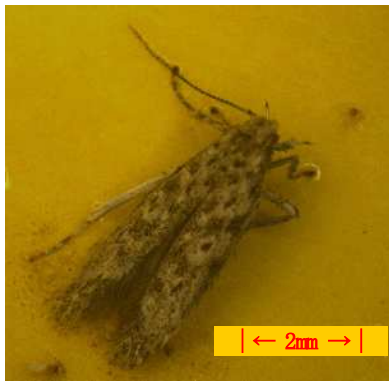


図3 出水市ミニトマト栽培ほ場内の粘着トラップに付着した成虫



図4 被害果内から採集したトマトキバガの幼虫（出水市、ミニトマト）

表2 トマトキバガに登録のある薬剤（トマト、ミニトマト：令和8年5月13日現在）

農業の名称	登録の有無		IRAC コード ※	農薬の種類	使用時期	希釈倍数 /使用量	使用 方法	使用 回数
	トマト	ミニトマト						
ディアナSC	○	○	5	スピネトラム水和剤	収穫前日まで	2500 ～5000倍	散布	2回 以内
ラディアントSC	○	○		スピネトラム水和剤	収穫前日まで	2500 ～5000倍	散布	2回 以内
ダブルシューターSE	○	○		脂肪酸グリセリド・ スピノサド水和剤	収穫前日まで	1000倍	散布	2回 以内
アファーム乳剤	○	○	6	エマメクチン安息 香酸塩乳剤	収穫前日まで	2000倍	散布	5回 以内
アグリメック	○	×		アバメクチン乳剤	収穫前日まで	500 ～1000倍	散布	3回 以内
アニキ乳剤	○	○		レビメクチン乳剤	収穫前日まで	1000倍	散布	3回 以内
エスマルクDF	○	○	11A	BT水和剤	発生初期 但し、 収穫前日まで	1000倍	散布	—
ゼンターリ顆粒水和剤	○	○						
デルフィン顆粒水和剤	○	○						
チューレックス顆粒水和剤	○	○		BT水和剤	発生初期 但し、 収穫前日まで	2000倍	散布	—
ジャックポット顆粒水和剤	○	○						
チューンアップ顆粒水和剤	○	○						
コテツフロアブル	○	○	13	クロルフェナビル水和剤	収穫前日まで	2000倍	散布	3回 以内
トルネードエースDF	○	×	22A	インドキサカルブ水和剤	収穫前日まで	2000倍	散布	2回 以内
ファイントリムDF	○	×		インドキサカルブ水和剤	収穫前日まで	2000倍	散布	2回 以内
アクセルフロアブル	○	○	22B	メタフルミゾン水和剤	収穫前日まで	1000倍	散布	3回 以内
プレバソンフロアブル5	○	○	28	クロラントラニプロール水和剤	収穫前日まで	2000倍	散布	3回 以内
					育苗期後半 ～定植当日	100倍	灌注	1回
ベネピアOD	○	○		シアントラニプロール水和剤	収穫前日まで	2000倍	散布	3回 以内
ベリマークSC	○	○		シアントラニプロール水和剤	育苗期後半 ～定植当日	400株 当り25ml	灌注	1回
プリロッソ粒剤オメガ	○	○		シアントラニプロール粒剤	育苗期後半 ～定植時	2g/株	株元 散布	1回
フェニックス顆粒水和剤	○	○		フルベンジアミド水和剤	収穫前日まで	2000倍	散布	2回 以内
ヨーバルフロアブル	○	○		テトラニプロール水和剤	収穫前日まで	2500倍	散布	3回 以内
グレーシア乳剤	○	○	30	フルキサメタミド乳剤	収穫前日まで	2000倍	散布	2回 以内
プレオフロアブル	○	○	UN	ピリダリル水和剤	収穫前日まで	1000倍	散布	2回 以内

※IRAC コードとは、殺虫剤の有効成分を作用点と作用機構から分類した番号や記号のことで、本コードが異なる薬剤を使用することにより、同一系統の薬剤の連用を防ぐことができる。